

# 浜須賀地区 防災都市づくりニュース

平成23年9月11日[日] 浜須賀地区防災都市づくりワークショップ開催

VOL.

1

## 浜須賀地区で、浜須賀地区防災都市づくりワークショップを開催しました

### ワークショップの内容

災害に強い都市づくりを進めていく上で重要なことは、市民と行政などが、それぞれの役割を担い、継続的に取り組みを進めていくことです。

今回は、浜須賀地区をモデル地区とし、市民と行政がともに協力して、地域から何ができるのかということをお話し合っていきます。

当日は、31名の方にご参加いただくとともに、東京大学の加藤孝明先生にご指導をいただきながら、第1回のワークショップが行われました。

### 次世代とともに進める防災都市づくり

これからの防災都市づくりでは、地域の高齢化が進む中で、次世代とどのように連携していけるのかということが、とても重要になります。

今回は、地域の中学生にも参加していただき、「自分たちでできることは何か」、「地域と中学生が協力してできることは何か」といったことについて話し合いながら、地域で実際に取り組んでいくアクションプランを作成していきます。



### ガイダンス

日時：9月11日[日] 9:30-12:00

場所：浜須賀会館

- ★基調講演：「東日本大震災をふりかえる」  
「地域から進める防災都市づくりのポイント」
- ★まち歩きの視点を考える

1

### 防災の視点で浜須賀のまちを再確認する

日時：9月18日[日] 9:30-12:30

場所：浜須賀会館

- ★まち歩き
- ★浜須賀の良いところ・危険なところを探す

2

### 防災の視点から浜須賀のまちを考える

日時：11月6日[日] 9:30-12:00

場所：浜須賀会館

- ★浜須賀の良いところ・危険なところを考える
- ★地域で取り組んでいくことを話し合う

3

### 個人・地域でできる防災まちづくりを考える

日時：12月3日[土] 13:30-16:00

場所：浜須賀会館

- ★地域で取り組んでいくことを話し合う
- ★アクションプランを作成する

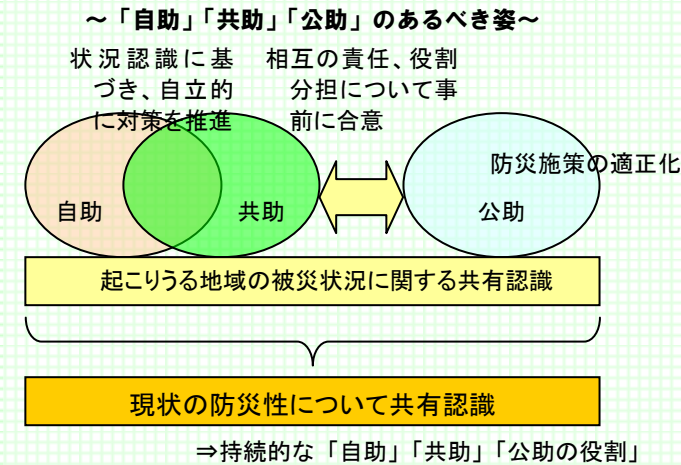
4

## 地域から進める防災都市づくりのポイント

第1回目は、東京大学の加藤先生よりご講演いただき、「自助」「共助」「公助」のあるべき姿など、防災都市づくりを進めるために重要なお話がありました。

### 2 「自助」・「共助」・「公助」による持続的な取り組みを

- 自助・共助・公助の得意・不得意を理解しておく  
⇒自助・共助・公助にはそれぞれ得意・不得意分野がある。お互い何をしてくれるのかを事前に理解しておくことが大切。  
⇒それぞれの役割分担を考え、持続的に進めていくための仕組みを考える



### 1 人間の本质を理解して、防災都市づくりを考える

- 人間は、都市を見る時に、安全だと思って見る  
⇒自然環境の中には危険はあっても、都市環境では安全が与えられているものと考えてしまう。
- 危険性はわかっているけど大丈夫だと思ってしまう  
⇒経験をしていないことに対して、根拠がなくてもたぶん大丈夫だと思ってしまう。
- 社会的に信頼感がないと、社会全体が不幸になる  
⇒信頼された地域のホームドクターがいると、まち全体が良くなるような活動ができる。

### 3 地域で起こりうる災害イメージを具体的に考える

- 災害の状況をイメージする  
⇒過去の災害事例や被害想定結果から、この地域で起こりそうな災害を想像し、災害のイメージを持つことが重要。
- 災害イメージを固定化しない  
⇒条件が変われば状況も変わってくる。災害事例以外の可能性も考えながら災害イメージを高めることが大切。

### ◆防災都市づくり成功のポイント

- 最後は地域の力  
⇒避難所運営でも避難でも、最後に頼りになるのは地域の力。  
⇒地域の力を引き出せるかどうか成功のポイント。
- 4つの目のバランスをとれていると、よい防災になる  
①時間的に近くを見る目 ⇔ ②時間的に遠くを見る目  
③個人を見る目 ⇔ ④俯瞰的に見る目
- 防災都市づくりを長期的に持続させる  
⇒一瞬盛りあがっても、その間に地震が来なければ意味がない。  
⇒長期的に持続させられるかどうか、重要な成功のポイント





## 1 班

### ●地域の特徴

- 水路の存在を知らない人が多い
- 要援護者がたくさんいる
- 地域について知らないことが多い
- 同じ地域の中でも、取り組みやまとまりに差がある
- 子供がいる人は付き合いがあるが、顔を見たことのない人もたくさんいる

### ●今後の進め方のアイデア

- 飲み水を確保する（井戸、学校の貯水槽）
- 袋小路 水路 抜けられるところを確認する
- 避難するとき、近所の人への対応はどうする？
- 世帯が多いので、まずは班ごとに駐車場に集まって避難
- 空き地や駐車場も拠点として活用する
- 長期的に見ても変わらない土地の活用する（公園など）
- 日頃からの付き合いを密にする

### ●まち歩きの見点

- 駐車場、公園など一時的に避難できる場所は？
- 行き止まり、水路、避難路の確認
- 井戸などの水源の確認



## 2 班

### ●地域の特徴

- 木造家屋が多い
- 安全といわれるが、ブロック塀も多い
- 高い建物（避難できる場所）が無い
- 自治会の中でも、避難先が異なる

### ●今後の進め方のアイデア

- 目的を決めて、共有しておくことが大切
- 災害を想定して、話し合いを行う→震度5以上を想定
- エリアをしぼってまち歩きを行う

### ●まち歩きの見点

- 学ルートは安全か
- 避難所まで避難するのに、どれくらい時間がかかるか
- 安全な道・場所はどこにあるのか

## 4 班

### ●地域の特徴

- 新しい家、若い世代が多い
- 海に近い、水につきやすい地域
- 留守の家が多い
- 自治会加入率が低い
- せまい道、行き止まりが多い

### ●今後の進め方のアイデア

- 防災教育重要
- 昼間おこったとき女性、高齢者の意識高める
- プールの水を消火用水として地域で簡単に使える仕組み
- 消火栓使えるか
- 避難路がどのくらい通れるのか
- ブロック塀の確認
- 広大な空間（ゴルフ場）をどう生かす？

### ●まち歩きの見点

- 消火栓使えるか
- せまい道、行き止まりを確認
- 避難路がどのくらい通れるのか
- ブロック塀の確認



## 3 班

### ●地域の特徴

- 学校が多く存在
- 団十郎山、ゴルフ場の活用
- ブロック塀が多い
- 行き止まり道路、迷路
- 緊急車両が通れない
- 防犯灯 細街路は蛍光灯、LEDになっていない
- 要援護者、独居老人
- 浜須賀小 屋上に人が入れない（荷重に耐えられない）

### ●まち歩きの見点

- 避難ルート
- 避難場所

## 5 班

### 浜須賀中学校生徒の発表

### ●地域の特徴

- 車の多い通りがある
- 信号がない
- 街灯が少ない場所がある（暗いところ）
- 人、車が通る細い道に自転車がある
- まがりかどにカーブミラーがなくて危ない場所ある

### ●今後の進め方のアイデア

- 避難の時に使える道の確認
- 身近にある避難所の確認
- 防災倉庫のあるところを知っておく
- 地域の防災放送の鳴っているところの確認
- ボーリング資料や土の質を調べて、特徴をつかむ
- 自動販売機が倒れた時によけられるくらいの道幅があるか
- ペット所有の有無、種類
- 災害時に協力し合えるように地域の交流を強化
- 放送用ラジオを設置
- 津波から逃げるための道はどのくらい整備されているか
- 津波情報が入った時、どっちに逃げたらいい？
- 津波時の対策として高い建物の解放とその協力



## 加藤先生のコメント

○大変短い時間にも関わらず、網羅的に議論できたのではないかと思います。中学生からも非常にたくさんの意見が出ていて、今後、ますますいい議論ができるのではないかと期待しています。

○次回のまち歩きでは、みなさんがまちをみる目と、災害時どういう状況になるだろうかという想像力、洞察力が非常に重要になってくると思います。